

急傾斜地の安全対策

倉持 光男 議員

問 3月11日の地震で、想定では地殻が東に50センチほど動いている。急傾斜地に対する危険も増している。考えたことはあるか。

総務部長 我々もその辺は危惧している。

問 急傾斜地の安全対策の工事は、茨城県全体を見ても、取手市の進捗状況が極めて低い。どこに問題点があると考えるか。

建設部長 決して一概に、取手だけが進捗率が悪いとは考えていない。

問 受益者負担金の問題があるから、事業が進捗しないのではないか。負担金を徴収しているのは取手市と下妻市で、残りはすべて行政持ちで工事を行っている。どのように考えているか。

答 受益者の1割負担については、今までどおりやっていきたい。

問 受益は地権者だけではない。取手市自体が受益を受けるという考え方はできないか。地権者にだけその負担を負わせていいのか。

市長 今の時点では、そういう考えに立ち至っていない。防災計画の中で検討していくときのひとつの大きな要素にはさせてもらいたい。

事業者公募は裏切り ウェルネス・タウン

朝比奈 通子 議員

問 なぜC街区の事業者を公募したのか。市長選挙のときに市長が「松本眼科とSクリニックが医療モールをつくる」と街頭演説しているように、事業者は既に決まっていたのではないか。むしろ公募したことが市民への裏切りではないか。

都市整備部長 土地利用構想に合った建物を民間の力で建てていただきたいということでご公募に至った。

問 中心市街地活性化の観点からも医療モールは疑問。看護学校などの誘致を考えてほしかった。具体的なビジョンも何も持たず、関係者の利害の一致だけでこういう結果になっているのか。

市長 地形が悪い中、提案があつて大変ありがたい。もしなかったら、あの土地はまた塩漬けになっていた。

中心市街地整備課長 平成21年度の企画提案公募にも医療関係の誘致は多数あつた。そういう背景から医療施設の集約を位置付けた。

問 医療モールの地域貢献性、公益性についてはどのような提案があつたのか。

答 取手駅に立地するので通勤・通学者への利便性と、高度医療的なものを取り入

れて地域の（病院の）先生方へのサービス提供もしていきたいとのこと。

日常生活を守れ 白山前交差点

川又 貞男 議員

問 6号の白山通りの交差点は、将来は白山一丁目のほうにある道路がなくなる。道路がなくなれば、斜めに交差点をつくる必要はない。6号に直角に渡れる道路ができる。そういう方向でやって、信号をつけてほしい。信号をなくすと、右折する車がいつ右折していいかわからない。事故になる可能性が多いのではないかと。ぜひ歩道もつけて、直角に、そして信号もつけて、日常生活が守られるような交差点にしてほしい。

市長 6号から白山商店街に入る交差点は、何を聞いても子どもたちの安全が確保されることが最優先。安全な交差点になるように一生懸命、県警、取手警察署、その他と調整しながら取り組んでいる。

都市整備部長 右折に対しての信号機はつけられない。ただ、右折ラインについては白山前の皆さんからの強い要望があり、確保ができた。歩行者の安全性については、新しい交差点に歩道と自転車道を設置する。

問 6号の白山通りの交差点は、将来は白山一丁目のほうにある道路がなくなる。道路がなくなれば、斜めに交差点をつくる必要はない。6号に直角に渡れる道路ができる。そういう方向でやって、信号をつけてほしい。信号をなくすと、右折する車がいつ右折していいかわからない。事故になる可能性が多いのではないかと。ぜひ歩道もつけて、直角に、そして信号もつけて、日常生活が守られるような交差点にしてほしい。



安全性と利便性を 白山前交差点

山野井 隆 議員

問 白山前交差点は、安全性と利便性が確保された交差点に整備する必要がある。警察、国交省との協議の進捗状況はどのような状況か。

都市整備部長 白山地区の皆さんから、右折ラインの設置要望があつた。12月に国交省、茨城県警から、右折が可能という承認をいただける形になった。

問 国道斜め横断を望む声がある。同じ交通動線をとることは可能か。

答 警察及び国交省から、それはできませんという強い指導をいただいている。

問 歩道の整備はどのようなのか。

答 都市計画道路は、3・5メートルの歩道を両面につける。そして、6号線のガスト側は横断歩道の設置がある。下り車線は3・4メートルの歩道を私どもで整備する計画。

問 安全第一でやっていただきたい。スケジュールは、今のところどんな感じか。

都市整備部長 平成24年

10月ごろに開通させたいと考えている。

駅前の商業振興

加増 充子 議員

問 東急ビル閉鎖から1年余り、今なお再開の見通しに立っていない。東急再開に対する取手市側の取り組みはどうだったのか。

都市整備部長 権利者からは、非常に厳しい状況であるという報告を聞いている。

問 私たちは議会のたびに、権利者、市内の工商业者、市民、取手市が入った協議の場をつくるべきだと言ってきた。それについては何もしてこなかったのか。

答 地元商工業の振興のための支援制度こそ今求められている。どのように考えるか。

まちづくり振興部長 ウェルネスを活用した中で、日中の駅周辺で人の流れを多くつくるということから、商業環境が整ってくると、産業振興の面から考えている。

問 どのような支援制度を考えているのか。

答 具体的には、空き店舗の家賃の支援。もう一つは、空き店舗改造に対する支援ができないかといった両面から検討している。また、経営的な分析ができるような支援、ソフト的な支援を検討している。

問 東急ビル閉鎖から1年余り、今なお再開の見通しに立っていない。東急再開に対する取手市側の取り組みはどうだったのか。

都市整備部長 権利者から

民生委員の 災害時の役割

石井 めぐみ 議員

1 3月11日の震災発生時に避難所において、民生委員や自主防災会はどのように活動をされたのか。

2 民生委員や自主防災会の細かい行動が地域防災計画に明確に掲載されていない。どう記載していくのか。

3 自主防災会を立ち上げた場合の補助金の見直しを行って、会の立ち上げを促進する考えはないか。

4 自主防災会同士または自主防災会や民生委員の防災訓練は実施しているのか。

総務部長 1 地震直後は、避難者への支援、毛布の提供、炊き出しなどを中心に行われていると思う。

2 民生委員には、災害時要援護者の安否確認、避難所の中での対応をお願いしようと考えている。自主防災会には、避難所の中でリーダー的存在をお願いしようという議論を進めている。

3 大きな災害が起きたことで、組織化の機運が盛り上がるのではないかと期待している。補助金の見直しは今のところ考えていない。

4 防災訓練を見直さなければならぬ。その中で、民生委員や自主防災会に参加してもらい訓練をしたい。

問 3月11日の震災発生時に避難所において、民生委員や自主防災会はどのように活動をされたのか。

民生委員や自主防災会